校長室だより～燦燦～ №３２８

できない

2021.3.21

教員として、あるいは社会人として仕事をしていく中で、自分は「できない」と認識することも大切だと感じることがある。また、自分は「ミスをする」人だと自覚することが必要である。

どうも学校の先生は、ミスをしない、ミスをするわけがないと思い込んでいるふしがある。最初からミスがないと思って点検をするのと、ミスは必ずあると思って点検をするのとでは、大きな違いが出てくる。前者の場合だと、ミスを見つけることができずに大小様々な問題を起こす可能性が高まる。一方、後者の場合だとミスが見つかる可能性が高まり、問題を未然に防ぐことにつながる。

小惑星探査機「はやぶさ２」のプロジェクトマネージャとして、約６００人の多国籍のスペシャリストから構成される一大プロジェクトを牽引してきたのが津田雄一さんである。津田さんが、こんなことを言っている。

（物事を成就する人とできない人の差はどこにあると感じられていますか？）

自分たちはできないとちゃんと自覚することだと思います。もちろん我々はきちんとミッションを果たせるように「はやぶさ２」をつくりました。

ただ、こういう障害があったらできないよねとか、あるいはパーフェクトな人間が操作すればできるかもしれないけれども、我々はパーフェクトな人間じゃないよねって。

人間はミスをするものだし、１００％完璧というのはあり得ない。「はやぶさ２」のチームにはそういう自覚が醸成されていました。だからこそ、過信せず驕らずに謙虚であること、常に現状に安心したり満足したりしないで、よりよいものを探究し続けていくことが大切ではないでしょうか。

それと同時に、チーム全体が高い目標に向かって強いモチベーション、目的意識をきちんと持っていること。言い換えれば、仕事を楽しむ。隙さえあれば面白いことをやってしまう遊び心がなければ物事は成就できないと思います。

示唆に富むお話である。自信をもつのはいいが、過信はいけない。謙虚な姿勢で誠実に仕事を進めていくことが重要である。

文章作成の場合だが、人にはミスの傾向というものがある。パターンと言ってもよいかもしれない。例えば、日にちと曜日がずれるケースなどである。自分のミスの傾向を知っていれば、ある程度セルフチェックが機能するようになる。ただ漫然と眺めていてはミスは見つからない。なぜなら、最初から間違いはないと思って見ているからである。誰でも、自分の文章に間違いがあるとは思いたくはない。しかし、誰にでもミスはあるのである。

また、「これは自分にはできそうもない」と見通せる力も大切である。最初からやろうともせずに、無理だ、できないと思い込むのはよくない。だが、様々な角度から検討を重ねた結果、「できない」と判断することは必要である。自分にはできないとなれば、人の助けを借りたり、勉強をしたりと、何らかの対策を考えるようになる。そして、何より慎重に進めるようになり、謙虚な姿勢で臨むようになる。まずは、己を知ることが大切だということか。